

ドイツ・アウクスブルク市滞在記

松崎 日和

はじめに

使節団応募のきっかけは大学でドイツ・アウクスブルク市を訪れる尼崎市青年使節団の募集要項を見かけたことでした。国際関係に興味がある私はドイツの街並みを見ることができるとはもちろん、現地の方やホストファミリーとの交流をし、互いの歴史や文化を理解したいと考えていました。

9月8日〈現地1日目〉

関西国際空港からエミレーツ航空を利用し、ドバイ経由で長いフライトを終え、ドイツ南部のミュンヘン空港に到着しました。その後、休むことなくバスでアウクスブルクに向かい、ホストファミリーと顔合わせをしました。移動中の車内ではプレッツェルとりんご1個が配られたことに驚きました。



アウクスブルクは日本と比べて気温が低く、母国はまだまだ酷暑続きだったので、その気温差に慣れるのに時間がかかりました。アウクスブルクについてからの最初の夕食はホストファミリーの家で手料理をいただきました。日本のお土産を渡し、日本や家族について話す時間を過ごしました。

9月9日〈現地2日目〉

バスで市内視察。まずディーゼル記念石庭苑や日本庭園を含む植物園へ。この日本庭園は日本の職人がドイツの植物園に来て造ったそうで、日本と違う材料で日本庭園を再現するのはとても難しいことなので彼らの知恵と努力を感じました。

次に、低所得者のための社会福祉住宅であるフッガーライの視察へ。ここはアウクスブルクの市民であり、且つカトリック信者で経済的に困窮している人のみが住むことができ、フッガー家のために朝昼晩とお祈りすることが義務付けされているとのこと。家賃がとても安くて驚きましたが、夜間は外出するためにお金を払わなければならない、特に24時から3時は1年間の家賃よりも高い金額を支払わなければならないという説明を受け、夜遊びに厳しいルールだと感じました。

9月10日〈現地3日目〉

市内のロココホールにてアウクスブルク市の副市長を表敬訪問しました。その後、市場そしてアウクスブルク市立図書館の視察へ。日本と違って楽器やゲームも借りることができるようで、とても便利であると感じました。次に昼食を挟んで伝統衣装であるディンドルを試着しました。



衣装はとてもカラフルで訪問メンバーそれぞれの衣装は使われていた時代が違ったのですが、どれもヨーロッパの街並みに溶け込んでいて魅力的でした。その後、人形劇団ブッペンキステの展示を見学しました。

9月11日〈現地4日目〉

フュッセンに向かい、今回の旅の観光の目玉であるノイシュヴァンシュタイン城へ。ここはディズニーのシンデレラ城のモデルとしても有名なお城で、私自身も一番楽しみにしていました。



人生初の馬車に乗ることができ、予想外のお城の世界観にただただ圧倒されました。その後、ヴィースの巡礼教会を見学し、とても神聖なキリスト教の雰囲気を感じることができました。

9月12日〈現地5日目〉

まず、Halle116の視察へ。ここではドイツの歴史やアウクスブルク市の

役割についての説明を受けました。次に、アウクスブルク大学に行き、図書館や食堂を見学。その後、繊維博物館へ。次に、WWKアリーナへ移動。ここは地元のサッカーチームであるFCアウクスブルクのホームスタジアムであり、VIP専用ルームやスポンサールーム、選手ルーム、選手がインタビューされる場所などアリーナの裏側を見学し、とても貴重な経験になりました。



9月13日〈現地6日目〉

まず、アウクスブルクの歴史的な水道施設と職業訓練センターの視察へ。水道施設は、今では傾いているにも関わらず、当時のまま残されている場所もありました。その後、コルピングハウスで送別会に参加しました。ネットワークが上手くつながらないトラブルもありましたが、最終的には日本の訪問メンバーと準備したクイズをドイツの方々楽しんでいただけたので安心しました。

9月14日〈現地7日目〉

休日だったのでホストファミリーがショッピングがてらミュンヘン観光に連れて行ってくれました。ミュンヘンでは歴史的な建築や神聖な教会がいたるところにありました。



おわりに

私のホストファミリーになぜ、私を迎え入れてくれたのかということを探りました。すると、前回の尼崎市青年使節団の方との交流が楽しかったからだと言っていました。私も今回の訪問で次回の尼崎市青年使節団の方々に良い影響を与えることができたら嬉しいです。

今回、私は尼崎市青年使節団の団員になり、旅行とは違う形でドイツ・アウクスブルク市を訪れることができました。この訪問でお世話になったホストファミリー、アウクスブルク市の職員の方々、尼崎市の職員の方々に深く感謝申し上げます。これからもホストファミリーとの交流を大切にしていきたいと思っています。